

## ま え が き

信州大学環境科学研究会（注）の地域開発と環境問題研究班は、一昨年度（1989年2月）はゴルフ場の開発と地域環境問題をテーマとして松本市で、昨年度（1990年2月）は地域開発と水問題をテーマとして長野市で、公開シンポジウムを開催した。これらのシンポジウムの成果は、いずれも「環境科学年報—信州大学」の第11号および第12号の別冊として残されているほか、さらに内容を増補して、それぞれ、「ゴルフ場・リゾート開発——地域になにをもたらすか」および「地域開発と水環境」として信山社から出版されている。

環境問題は、身近な水、大気、土壌、静穏環境などの汚染や破壊の問題から地球温暖化の問題まで、その分野も規模もきわめて多岐にわたっているが、われわれはこの数か月間、報いられるものが何も無いばかりでなく、人命、資源をはじめ多くの貴重なものを同時に失う最悪の環境破壊は戦争であることを、また改めて思い知らされた。幸い、湾岸の戦火はおさまったが、ペルシャ湾の沿岸は黒い油にまみれ、500か所に及ぶ油井がなお紅蓮の炎と煤煙を吹き上げており、いつ鎮火できるか予想さえ立っていない。平和の維持こそ、まさに環境保全の出発点である。

目を地域に転ずるとき、これまでに取り上げてきたゴルフ場開発や水環境をめぐる問題は、なおゆるがせにできない状況にあるが、さらにこの二三年、生活圏の環境をめぐるいくつかの問題が、住民の関心事になりつつある。このような問題も多岐にわたっており、とても一日のシンポジウムで網羅できるほど単純ではないが、それらの中から、地域景観の問題、身近な野生動物の保護と復活の問題、および現在長野県下で着々と整備が進められている高速道路と環境の問題を取り上げ、第3回目の公開シンポジウムを開くことにした。過去2回のシンポジウムは、講演数が多すぎて1題の講演時間が短く、討論も不十分だったので、今回は上記の3つのテーマの各々について、主たる講演は各1題とし、これに2題の補足講演を配する形式をとった。また最後に、十分とはいえないが、総合討論の時間も設けた。年度末の多忙な時期に快く講演または司会をお引き受け下さり、講演資料等をご準備下さった各位に、厚くお礼申し上げる次第である。

さて、われわれ信州大学環境科学研究会の活動は、3年を一区切りとして文部省から交付される特定研究費によって維持されており、本年度は「ハイテク時代における信州の環境保全とその創造」のテーマで1988年度からおこなわれてきた研究活動の最終年度に当たる。したがって、地域開発と環境問題研究班も、本年度をもって解消することになる。

第3回シンポジウムを開催するに当たり、この3年間われわれの活動にご理解とご協力をお寄せ下さり、また直接、間接ご支援下さった学外の方々、ならびに学内の研究会事務局および研究班の各位に、世話人として心から感謝申し上げます。次第である。

信州大学環境科学研究会

地域開発と環境問題研究班

世話人 桜井善雄

---

注：旧称 信州大学環境問題研究教育懇談会(1991年1月の総会で上記のように改められた)